

これほどまでに重大なしるし

ファチマで起こったことの噂が、ポルトガルの他の町や村々に次第に広がっていき、ヨーロッパの他の場所でも報道されるようになったことは、想像するに難くありません。それと共に、ファチマなどという取るに足らない場所で、聖母マリアがこの地上に現れたなどという事を信じるのを拒絶する人が多かったという事も、理解しやすいことでしょう。

だからこそ、1917年の9月13日に、聖母マリアは子供たちに「10月に私は、すべての人がこの出来事を信じるよう奇跡を行きましょう」とおっしゃったのです。

太陽の奇跡

雨とぬかるみにもかかわらず、10月13日が近づくにつれ、ファチマに通じるすべての道を、大群衆が辿っていました。この人々は全て、聖母マリアを見たかったのです。正午の少し前、聖母がファチマでの最後の御出現をなさいました。愛に満ち溢れた心を持って、子供たちは聖母の最後のメッセージに耳を傾けました。「人々は自分の生活を改め、自分の罪の赦しを願わなければなりません。主なる天主にこれ以上背いてはなりません。なぜなら、人間は既にあまりにも天主様に背いているからです」

それから、太陽の大奇跡が行われました。この時、太陽の色は血のような赤となり、天において、舞踏を踊るかのような動きを見せました。太陽は天から、7万人以上の群衆の頭の上に落ちかかってき始めました。群衆は、戦慄と驚愕にとらわれ、この現象を見つめました。全員が、世の終末が来たのだと考えました。その場の全員が叫び、涙を流しました。「聖なる童貞、私たちの罪の報いを与えないでください」と叫びました。太陽が最後に元の天の場所に戻った時、全員がファチマにおいて、天が、本当にこの地上に働きかけ、それを訪れてくださったのだという事を悟っていました。人々は口々にファチマの子供たちに対し、同じ一つの質問をしました。「聖母マリア様は、私たちに何を望んでおられるのですか？」



1916年の天使の言葉

「あなたたち、何をしていますのですか？ 祈りなさい。たくさん祈りなさい！ イエズス様とマリア様の聖心は、あなた方に対して憐れみの計画をお持ちです。天のいと高き所におられる御方に常に祈りと犠牲を捧げなさい」



天使が教えた祈り

わが天主よ、われ、信じ、礼拝し、希望し、御身を愛し奉る。われ、信ぜぬ人々、礼拝せぬ人々、希望せぬ人々、御身を愛さぬ人々のため、御身に御赦しを願い奉る。

至聖なる三位一体、聖父と聖子と聖霊よ、我御身を深く礼拝し奉る。世界中のすべての御聖櫃のうちにましまし給うイエズス・キリストのいと尊き御体、御血、御靈魂と御神性を、イエズス・キリスト御自身が受け給う侮辱、冒瀆、無関心を償うために、御身に捧げ奉る。イエズス・キリストの至聖なる聖心とマリアの汚れなき御心の無限の功德によりて、あわれな罪人の回心を御身に願い奉る。アーメン



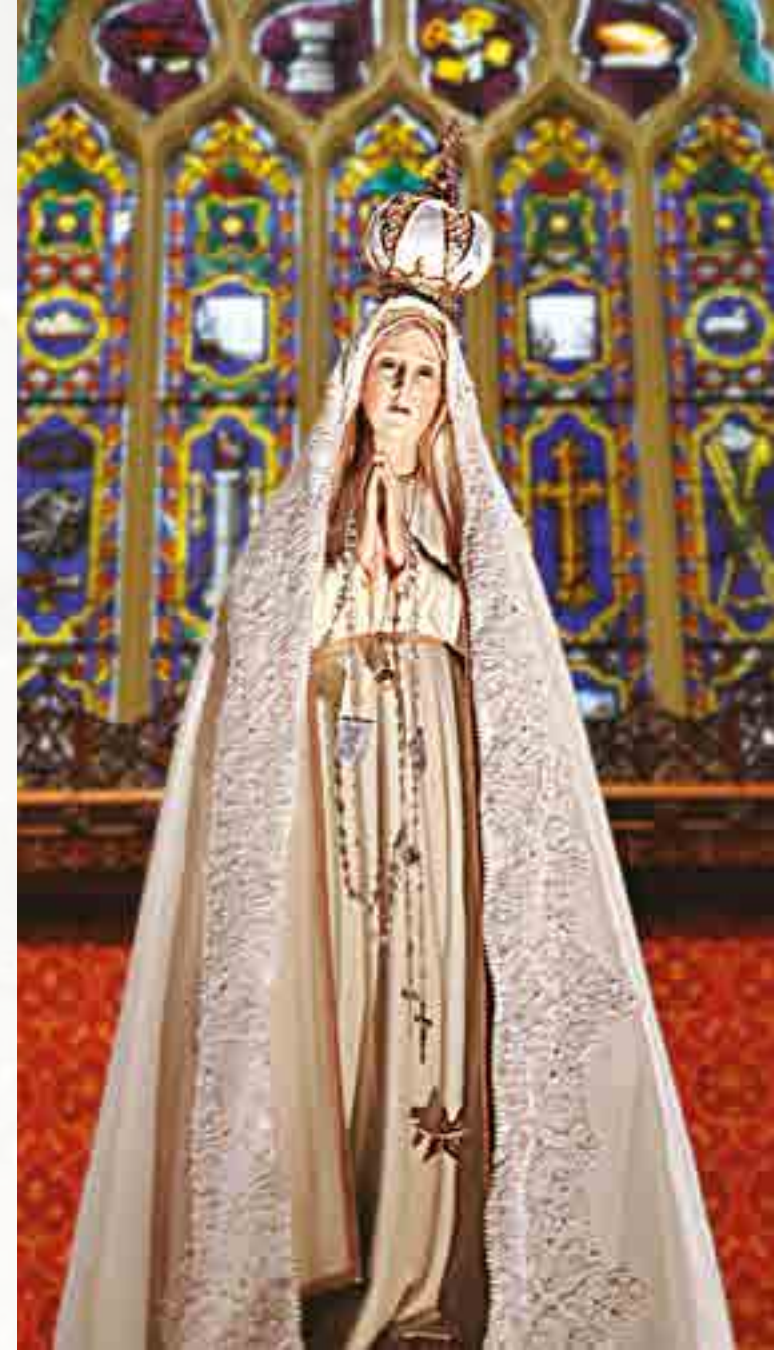
MILITIA IMMACULATAE

www.militia-immaculatae.asia

info@militia-immaculatae.asia

www.kolbepublications.com

www.knightlibrary.wordpress.com



ファチマの聖母



ファチマの歴史は三つの時期に分類できます。第一の時期は、1916年の天使の出現の時期、第二が1917年の5月から10月にかけての聖母マリアの御出現期、第三は、その後の聖母が初土曜日の償いの信心をお願いになった聖母出現期です。

ファチマの子供たち

ファチマの出来事というのは、実際には、1916年に始まりました。この年、当時9歳の少女だったルチア、8歳の少年フランシスコ、そして6歳のヤシントは、天使の御出現を受けたのです。これは、その翌年の聖母の御出現のため、この三人の子供たちの心の準備をさせるためでした。



聖母マリアの答え

1917年10月13日の段階では、三人の子供たちは、全世界の混乱などという事は、何も知りませんでした。彼らは、当時の教皇ベネディクト十五世の声を聴いたこともなければ、教皇様が涙をためて聖母に訴え、地上をみそなわして下さるよう、また、無辜の子供たちの呻吟と母親たちや妻たちの苦悩の叫びを憐れんで下さるよう訴えかけた事も知りませんでした。実は、ファチマの奇跡の日こそ、天の元后が教皇様の訴えかけに答えようと決められた日だったのです。



最初の御出現の日は1917年5月13日でした。正午ごろ、子供たちは突然の閃光に驚かされました。空を見上げても、嵐が来る様子は何もありませんでした。ファチマの空は、この日ほど美しかったことは過去になく、その谷も、その日ほど平和だったことは過去に無かったのです。それから、二度目の閃光が閃きました。

突然の嵐が彼らを襲うのだらうと恐れて、子供たちは小さな洞窟の方向に駆け出しました。ふと振り返ってみると、一人の美しい貴婦人が近くの小さなトキワガシの茂みの上に立っていらっしやるのを見て驚きました。「恐れることはありません。私はあなた方に何も悪いことはいたしません」と美しい貴婦人は仰いました。

マリアの汚れなき御心

その年の6月13日、聖母はもう一度、御現われになりました。聖母は、毎日犠牲を捧げることをお求めになりました。それから、いつも祈りの姿勢で胸の前で合わせている両手を広げて、御自分の汚れなき御心をお見せになりました。御心は棘に囲まれ、刺し貫かれ、血を流していました。この時、聖母は御自分の御心について何も説明なさいませんでした。子供たちは、聖母の御心が人間の罪のために刺し貫かれ、血を流していらっしやること、聖母が罪の償いを望んでいらっしやることを理解しました。



地獄と戦争

7月13日には、聖母は子供たちに、多くの靈魂が地獄に落ちていくビジョンをお見せになりました。これに続く数週間、子供たちは、ビジョンで与えられた地獄の恐ろしい光景について思いを巡らすことをやめることが出来ませんでした。幼いヤシントも、腰を下ろして一度に何時間もこれについて思いを巡らしました。そしてルチアに言いました。「地獄に落ちる靈魂たちは本当に可哀想だわ・・・あそこの人たちは、生きたまま、火にくべられた薪みたいに焼かれていたわ。ルチア、どうして人々は地獄に行くのかしら？」ルチアが説明をしてやると、ヤシントは言いました。「ルチア、あなたはマリア様に、すべての人に地獄の光景を見せて下さるようお願いしなくてははいけないわ。そしたら、誰も罪を犯す人はいなくなるでしょう」と。

小さな英雄たち

8月13日、地区委員会の委員長であった郡長が子供たちを逮捕させ、聖母マリアが教えた秘密を明かさせる意向で、ピラ・ノーバに子供たちを連行しました。このため、この日は、聖母の御出現はありませんでした。子供たちは、この地域の牢獄に閉じ込められました。そして、もし聖母が教えた秘密を明かせば最も高価な贈り物を上げよう、という申し出を受けましたが、これらの小さな幻視者たちは言い返しました。「たとえ全世界をくれると言われても、言いません」と。子供たちは再び、牢獄に戻されました。